

授業モデル2 (小学校第6学年 Unit8 What do you want to be?)

小学校でも学習意欲面、「話す」「書く」活動が課題となっています。そこで、児童が楽しみながら学ぶことができるような授業づくりが大切です。



- 1 単元名 We can! 2 Unit 8 「What do you want to be?」
 2 目標
 (1) 将来就きたい職業などについて、聞いたり言ったりすることができる。
 (2) 他者に配慮しながら、将来の夢について伝え合おうとする。
 (3) 将来就きたい職業やしたいこと、その理由などを伝え合う。また、将来の夢について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に語と語の区切りに注意しながら書いたりする。

授業実践の3ポイント	学習活動と予想される児童の反応	時間	指導上の留意点 ※評価
【目標の明確化】 1 Warm Up	1 前時に学習した色々な職業の英語での言い方を確認する。(フラッシュカード)	2	・ 色々な職業の表現の仕方を想起させ慣れ親しませる。
2 興味・関心が生まれる導入	2 Small talk A: What do you want to be, Aoi? B: I want to be a pianist. A: A pianist? Why? B: I can play the piano well. I want to have a piano concert in my town.	5	・ We can!2のP.61の【Let's listen】を活用し、教師とALTとのモデルスキットで本時の課題につなげる。 ・ ピアニストになりたいんだ。 ・ “want to” って聞こえたよ。
3 めあての設定	3 本時のめあてを確認する。 将来就きたい職業について尋ねたり、答えたりしよう。	1	・ めあてを確認させ、将来就きたい職業について表現しようとする意欲を高めさせる。
4 解決の予想と見直し	4 学習の進め方を確認する。 (1) Chant (2) Activity (pair) (3) Activity (all) (4) ABC time (5) Looking Back ・ 英語で聞いたり答えたりできるようになりたいな。	2	・ 学習の進め方を板書しておき、活動の見直しをもたせる。
【山場の工夫】 5 自力解決による最初の考えの構築	5 将来就きたい職業について尋ねたり答えたりする英語表現の仕方を知る。	10	・ パターンプラクティスで用いる語彙は、ピクチャーカードを用いて黒板に示しておく。
6・7 考えの交流(学び合い) 視点2	A: Hello, oo. B: Hello, oo. A: What do you want to be? B: I want to be a teacher. What do you want to be? A: I want to be a pilot. ・ Aさんは、ジェスチャーを入れて表現していたよ。 ・ 言い方の工夫ができそうだね。	5	○ 聞き取れなかった場合は、pardon?などの表現を使うように指示する。 ○ 表情・ジェスチャーなどにも意識して表現していた子供を賞賛する。
	7 全体で表現の交流をする。 ・ Bさんの発音は聞き取りやすいな。真似してみよう。	10	○ 友達になりたい職業を聞いてワークシートに書く活動を通して、楽しく英語表現に慣れ親しめるようにする。
8 自力解決による最終的な考えの構築	8 本時に学習した英語表現を、例文を参考に書く。	5	・ 慣れ親しんだ表現を語と語の区切りに注意しながら書き写させる。
9・10 学習のまとめ・振り返り	9 教師との対話で、学習のまとめ・振り返りをする。	2	・ 8で書いたことを対話の中で表現させ、本時の学習を振り返る。
	10 振り返りカードで、自己評価をする。	3	・ 案じがたことやよかったところなどを振り返りカードに記入させる。 ・ 次時の活動への意欲付けを図る。

「確かめ見届け」

【コアティーチャーネットワークプロジェクト外国語活動・外国語科】
 東別府希(朝日小), 大尾優介(東城小), 林雅也(阿木名小), 石原明子(大勝小), 前園麻美(茶花小)
 枝迫香菜(名瀬中), 時田三紀(大和中), 濱田賢志(阿室中), 永峯枝里子(龍南中), 江川順子(亀津中)
 新彰(奄美市教育委員会), 高味淳(大島教育事務所)

学力定着のためのリーフレット 外国語活動・外国語科編 =H30 コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

「『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラム」の一環として行われたコアティーチャーネットワークプロジェクトで「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。大島地区の児童生徒の学力を定着させるためには、「確かめ見届け」の充実が必要であると考え、授業づくりをしています。ぜひ、参考にして授業に生かしましょう。

1 大島地区の外国語科の課題

(1) 「鹿児島学習定着度調査」の結果(県の平均正答率との差)から観点別では特に「外国語理解」、領域別では「話すこと」に課題が見られました。

観点	外国語表現 外国語理解 言語・文化の知識・理解	中1		中2	
		H28	H29	H28	H29
領域	聞くこと	-4.8	-5.2	-2.4	-4.8
	話すこと	-6.4	-6.0	-3.3	-5.0
	読むこと	-3.9	-5.4	-4.7	-4.6
	書くこと	-1.7	-1.0	-3.1	-0.1



(2) 「公立高校入学者選抜学力検査」の分析等から

4 下の絵は、英語の授業中のある場面を表している。場面に合うように、次の□に3文以上のまとまりのある英文を書け。ただし、同じ表現を繰り返さないこと。

Hi, everyone. I hope you are ready to give a speech. Taro, will you start?

OK. Today, I will talk about my good experience during last summer vacation.

I will never forget that experience. Thank you.

Thank you, Taro.

目安点に届かなかった生徒の多くは、記号で答える選択肢の問題だけを解き、問題の意図に沿って自分の考えをまとまりのある英文で書く問題の無答が多い傾向が見られました。

(3) 「鹿児島学習定着度調査」の質問紙等から質問紙等から、「教師の説明を聞く授業が多い」と感じている生徒が多い、「自分の考えを文章にまとめたり、話し合ったりする活動が少ない」と感じている生徒が多いようです。

そこで、「話すこと」「書くこと」に重点を置いた学習を進め、しっかりと力が付いたか「確かめ見届け」を行う授業づくりが大切であると考えました。



2 授業づくりのポイント

- 【視点1】 「確かめ見届け」の充実
 文の正確性を見取るためにはどのような手立てが考えられるか。(「話すこと」「書くこと」を関連付けた言語活動の工夫)
- 【視点2】 学び合いの場の設定
 児童生徒が自分の実態に応じて、主体的・対話的に学べるようにするにはどのような手立てが考えられるか。

授業モデル1 (中学校第3学年 Unit4 To Our Future Generations)

1 授業設定の理由

これまでのことを踏まえ、「話す」「書く」力を育成していくことが大切であると考えました。調査結果で通過率の低かった適切な語句や語順を意識させる問題と関連した項目として、小学校の「We can!1」のUnit6, 「We can! 2」のUnit8, 中学校では「NEW HORIZON 2」のUnit3, 「NEW HORIZON 3」のUnit4が挙げられます。言語材料としては、小学校では“want to～”, 中学校では“want to + 動詞の原形”, “want + 人 + to + 動詞の原形”です。

そこで、模擬授業の中では、対話を通して表現に慣れ親しませ、最終的には、“ask” “tell” を利用した表現、さらに、まとまりのある英文を書く活動を取り入れます。そうすることで、「話すこと」「書くこと」を関連付けた指導ができると考えました。



それでは、授業づくりの視点を踏まえて、平成30年度コアティーチャーネットワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。

2 授業の概要

(1) 単元名 *NEW HORIZON English Course 3 Unit 4 To Our Future Generations*

(2) 本時の目標 (5/10)

- ア ペアでの活動に積極的に取り組むことができる。
- イ 自分が相手にしてほしいことを伝えることができる。
- ウ 相手が自分にしてほしいことを理解し、適切に応じることができる。
- エ 「want + (人) + to + 動詞の原形」などの形や意味、用法を理解することができる。

3 本時の指導のポイント

- (1) 既習表現を繰り返し活用する場を設定することで、学習内容の定着を図る。
- (2) 「話すこと」だけでは見取ることのできない正確性についても確かめ、見届けることができるようにするために、「話すこと」「書くこと」を関連付けた言語活動を取り入れる。
- (3) 学び合いの場を設定することで、生徒が自分自身の習熟に応じて、主体的・対話的に学べるようにする。

授業充実の3ポイント	主な活動	時間	指導上の留意点 ※評価
【目標の明確化】 1 興味関心が生まれる導入	1 Warm Up として、「週末何をしたいか。」というトピックで対話活動を行う。 A: What do you want to do this weekend? B: I want to play sports. A: Me, too! A: What do you want to do this weekend? B: I want to help my mother. A: Nice!	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週末にしたいことを提示された9つの中から1つ選ばせ、自分と同じことをしたい人を3人探したら座るように指示する。 【週末にしてみたいこと】sleep / watch TV / play video games / play sports / read books / go shopping / go fishing / help my ・ 既習表現 want to を用いて、自分が週末にしたいことをペアで話させる。
2・3 課題意識の焦点化と学習課題の設定 4 解決の予想と見通し	2 本時のタスクを確認する。 新しいALTのウェルカムパーティーを計画しよう! ※ want (人) to～を活用する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月に帰国したALTからの手紙を読み、"She has been nervous for some weeks. I want you to help her."という部分に注目させる。 ・ 新しいALTのためにウェルカムパーティーを開くという課題を明確にし、タスクを提示する。

○ 既習表現 want to から本時の want 人 to へつながりのある small talk をする。
 ○ 小学校の want to とのつながりも意識させる。

【山場の工夫】 5 自力解決による最初の考え	3 新出表現を理解し、練習をする。 ALT からの手紙から、本時で学習する"want (人)to..."に気付かせる。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT からの手紙の中にあつた"I want you to help her."という文に注目させ、"I want to..."と何が違うのかを考えさせる。 ・ パターンラクティスを通して、理解を深めさせた上で、板書をプリントにまとめさせる。 ・ パターンラクティスで用いる語彙は、1の活動で用いるものとする。 ・ "want (人)to..."と同じように、"ask (人)to..."や"tell (人) to..."の言い方があることを確認させる。
6 考えの交流 (学び合い)	4 ALTのウェルカムパーティーの準備を手伝ってくれる人を探す。 私はこれがいいな。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートの表中に自分が担当するものを選ばせる。 【役割分担する内容】 make a card / buy a present / play music bring juice / bake cake / decorate the room ・ 自分の担当以外の役割を担ってくれる友達を探させる。
7 自力解決による最終的な考えの構築	5 活動を振り返る。 T: Who will buy a present? S: Koki will.	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰がどの担当を引き受けるか教師が英語で尋ね、確認しながら活動の様子を振り返らせる。
「確かめ見届け」 8 学習のまとめ 9 習熟 10 振り返り	6 活動の内容を英文で書いてまとめる。 ① I want Koki to buy a present. ② Hana asked me to make cards. ③ I asked Kana to buy some presents, but she didn't want to do it. After that, I asked Koki and he said, "Yes". I was so happy to hear that.	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の活動中の発言を想起させ、ワークシート①に英文を書かせる。 ・ ワークシート②に英文を書かせる。 ・ ②の文が書けた生徒は、教師のチェックを受けた後、他の生徒一人に教えてから③の英文に取り組むように指示する。
	7 本時のまとめをする。 ※ 相手にしてほしいことを伝える時は、want(人)to～を用いればよい。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の書いた英文の内容を例示し、本時の学習を振り返る。

○ 自分の手伝いたい内容を英語で伝えさせ、また、聞き手にも反応をさせることで、主体的・対話的な学びを促す。

○ 教師のチェックだけでなく、早くチェックしてもらった生徒が他の生徒の文をチェックするなど、教え合うことを通して、文の正確性についての見届けをよりきめ細かに行う。
 ○ 上位の生徒には、自分の考えをまとまりのある文章で書かせることで、高校入試を見据えた指導を行う。

【活用した振り返りシート】

① □ 今日の活動で使った表現を書いてみよう！

② □ 今日の活動の様子を「ask (人) to～」や「tell (人) to～」を使って書いてみよう！

③ □ 今日の活動の様子や、自分が感じたことなどを3文以上で表現しよう！